

1 義経 号諸元

形式名	7100形 7105号機関車
製造番号	368
製造年	1880(明治13)年
製造所	H.K.ポーター社(米国)
サイズ	12,008mm×3,388mm×2,133mm(最大長・最大高・最大幅)
動輪直径	914mm
重量	28.09t(機関車及び炭水車を合わせた運転整備重量)



2 義経 号来歴

年号	事項
1880(明治13)年	官営幌内鉄道(1)がアメリカから蒸気機関車2両を輸入。その内1両が義経号。
1881(明治14)年	明治天皇北海道行幸の際のお召列車(手宮～札幌間)をけん引。
1909(明治42)年	鉄道院の車両称号規定制定により7100形と改訂。
1923(大正12)年	廃車。
1925(大正14)年	梅鉢鉄工場(現在の株式会社総合車両製作所)に払い下げ。
1952(昭和27)年	鉄道開業80周年事業に合わせ国鉄が引き取り、鷹取工場で動態復元。「しづか」号と共に原宿駅で展示。(*)
1963(昭和38)年	しづか号と共に準鉄道記念物に指定。
1968(昭和43)年	北海道拓殖100周年行事にあわせ、北海道鉄道記念館(2)でしづか号と共に展示(*)
1980(昭和55)年	北海道鉄道開通100周年行事にあわせ、北海道鉄道記念館(2)でしづか号と共に展示(*)
1990(平成2)年	国際花と緑の博覧会(大阪市)会場内でイベント列車「ドリームエクスプレス」をけん引。
1991(平成3)年	交通科学博物館で保存展示開始。
1997(平成9)年	京都駅ビルグランドオープン記念行事の一環で、SLスチーム号をけん引 所属箇所が鷹取工場から梅小路運転区に移管。
2004(平成16)年	鉄道記念物に指定。
2005(平成17)年	北海道DCキャンペーンと小樽市制80周年にあわせて小樽交通記念館(2)で展示(*)

(1)後の北海道炭鉱鉄道。1906(明治39)年の国有化を経て、現在のJR函館本線等の前身

(2)現在の小樽市総合博物館

(*)「義経」としづかが再会をした行事

3 主な特徴

義経号は1880(明治13)年に官営幌内鉄道がアメリカから輸入された。その後、国有化を経て、1925(大正14)年に梅鉢鉄工場(現在の株式会社総合車両製作所)に払い下げられた。

当初から機関車に愛称名がついているのは、日本の鉄道では稀。現在は機関車の形式名全体の愛称として、JR貨物のEF210形電気機関車に「桃太郎」、EH500形電気機関車に「金太郎」と付けられている。

7100形蒸気機関車の愛称名は、源義経主従とその恋人である「義経」「弁慶」「しづか」など、歴史上の人物にちなんでおり、多くは北海道を想起させる人物名となっている。

義経号が本州に移ってから、恋人の「しづか」号とは合計4回の再会を果たしている。

梅鉢鉄工場(大阪府堺市)での使用中にタンク式蒸気機関車に改造されたため、炭水車が失われるなど原状と大きく異なっていたが、国鉄が再び譲り受けた後の1952(昭和27)年【鉄道開業80周年】にあわせて現在の姿に復元された。

7100形蒸気機関車の中では唯一の動態保存である。